

キッズコーナー

小学生、中学生に読んでもらいたい記事をおいています。読めない字があったら、おうちの人に教えてもらってね。

私たちの身近な文化財

小平神明宮の「戦捷記念碑」とモニュメント

「乃木坂」は港区にある地名ですが、これに関係のある石造物が小平市内にあることを知っている人は少ないと思います。

小川町にある小平神明宮は、小平の地を開拓した小川九郎兵衛が故郷岸村の神明ヶ丘の山上にあった産土神を勧請（お迎えすること）してできた小川村の鎮守（守り神）で、小平の神社の中でも特に格式の高い神社です。

この神社の青梅街道に面する鳥居をくぐってすぐ左手に高さ3mの大きな石碑があります。正面中央には縦に「戦捷記念碑」、左下に「希典書」と肉太の文字が彫られています（写真1）。裏面にはたくさんの人名とともに「明治四十二年一月建 小川兵事会」の文字が見られ、明治42年（1909年）に小川兵事会によって建てられたものであることがわかります。

「戦捷」とは「戦勝」のことで、これは明治37年（1904年）2月から翌明治38年9月まで、当時の日本（大日本帝国）と、ロシア帝国との間で行われた日露戦争での勝利を祝って建てられた記念碑です。また、文字を書いた「希典」とは乃木希典陸軍大将で、日露戦争で旅順攻囲戦を指揮し、大正元年（1912年）に明治天皇のお葬式であるご大葬が行われた日に、殉死（身分の上の人が亡くなった際に、その後を追って自殺すること）した有名な軍人でした。乃木坂の地名は、この英雄を記念して将軍の屋敷の隣地に作られた乃木神社にちなんでいます。

石碑裏面の人名は旧小川村地域から出征（兵士として戦争に行くこと）した人たちで、日露戦争の従軍者48名だけでなく、明治10年（1877年）に西郷隆盛を中心とする旧士族が明治政府に対して反乱を起こした西南戦争の従軍者3名、明治27年（1894年）から翌明治28年まで、日本と中国最後の統一王朝であった清国との間で行われた日清戦争の従軍者13名の名も刻まれています。

石碑の右側には「従軍記念碑」という同じ明治42年（1909年）に建てられた石碑もあり、戦捷記念碑裏面の日露戦争に従軍した48名と同じ名が見られますが、さらに興味深いのは、戦捷記念碑の右脇に立つ高さ約80cm、直径約30cmの、先頭が斜めに欠けて鉄錆色をした円筒形のものと、戦捷記念碑の手前左右にある2枚の小さな石碑です。

10年ほど前まで、円筒形のものには世などに覆われて、注意しないと見落としてしまうような状態でした。また小さな石碑のうち左側のものはなく、右側のものは大半が地面に埋まっていて、地上に出ている部分に「陸軍」の2文字が見られるだけでした。小平神明宮の神主さんに許可をいただいて掘ってみたところ、碑文は全部で6文字で、「陸軍省御下附」であったことがわかりました。

当時神主さんに伺ったところでは、円筒形のもは砲弾（大砲の弾）で、もともと陸軍省から戦捷記念碑のモニュメントとして下げ渡されましたが、太平洋戦争の時に供出（戦争に使うために鉄などを国に納めること）したため、代わりにコンクリート製のレプリカ（複製品）を置いたと伝えられているとのことでした。砲弾は、要塞砲などに用いられた守備用のものと考えられます（写真2）。

再び神主さんに伺うと、何年か前に戦捷記念碑の周りを掘ったり笹を減らしたりして、砲弾や右側の小さな石碑がよく見えるように整備したところ、左側の小さな石碑が埋まっているのが見つかったそうです。

この現在左側に立っている小さな石碑には「戦利品」と彫られており（写真3）、右側の「陸軍省御下附」の石碑と同じような自然石で作られているところから、砲弾は日露戦争の際、敵の守備隊から戦利品として獲得したものが、大日本帝国陸軍から陸軍省を経て下げ渡されたものと思われる。また磁石を近づけると引きつけられ、コンクリート製ではなく鉄でできていることがわかります。

砲弾がコンクリート製だとされたり、「陸軍省御下附」の石碑とともに目立たないように笹や土に覆われたり、また「戦利品」の石碑が埋められたりしていたのは、太平洋戦争の敗戦後、占領軍からならまれたり、壊すように言われたりしないように隠そうとしたためなのかもしれません。

ともに日露戦争に従軍した2人の息子が戦死したことで知られる乃木将軍の筆による紀（記）念碑の脇には、この戦争で使われたロシア軍の砲弾が、戦争の残酷さを物語るようにひっそりとたたずんでいるのです。



〈写真1「神明宮の戦捷記念碑全景」〉



〈写真2「砲弾と「陸軍省御下附」の石碑」〉



〈写真3「戦利品」の石碑〉

小平市 平櫛田中彫刻美術館

企画展

「花鳥風月—平櫛田中コレクションより—」

平櫛田中は、彫刻家だけでなく日本美術院の日本画家や工芸家など同時代の作家たちと親しく交わりました。展覧会では、平櫛田中コレクションのさまざまな美術品の中から、「花鳥風月」や「春」をテーマとした作品をご紹介します。

とき 5月17日（日）まで
▷「誕生仏」展示…3月18日（水）から4月13日（月）まで、平櫛田中が制作した「誕生仏」を展示します。



〈片岡球子「牡丹花」〉

開館時間 午前10時～午後4時 ※なるべく、午後3時30分までに入館してください。
休館日 火曜日。ただし、祝日は開館。
観覧料 一般…300円(220円)、小・中学生…150円(110円) ※カッコ内は、団体20人以上です。
問合せ 平櫛田中彫刻美術館 ☎042(341)0098 ※駐車場をご利用の方はご相談ください。

◆春のお茶会

平櫛田中が愛した庭園で、おいしい抹茶とお菓子をお楽しみいただけます。

とき 4月24日（金）～26日（日）午前10時～午後3時

ところ 平櫛田中彫刻美術館庭園

※荒天の場合は中止

費用 1席300円（別途、観覧料が必要です）

※各日、先着60人

協力 小平茶道華道友の会

◆桜草の展示

とき 4月22日（水）～29日（水・祝）※期間は予定です

◆わくわく体験美術館ウィーク

期間中、小・中学生は無料で観覧できます。（同伴の保護者の方は観覧料が必要）楽しいワークシートを用意しています。

とき 4月25日（土）～5月6日（水）午前10時～午後4時

対象 小・中学生



〈春のお茶会〉



〈わくわく体験美術館〉

第16回 小平よさこいスクール ダンスフェスティバルin2020

◆2月9日（日）ルネこだいら大ホール
「小平よさこい」は、地域の幼児・小学生から社会人まで、幅広い年齢層に親しまれており、今回は、市内全公立小学校、東京学芸大学および白梅学園大学から22チームが出場しました。



当日は出演者969人を含めて1,809人が集い、日頃の練習の成果を披露する小学生の姿や、大学生のキラキラあるダンスに温かい声援が送られました。オープニングでは、小学生と大学生総勢100人を越すメンバーで会場を盛り上げ、エンディングでは、小平伝統の「小平よさこい和踊り」で舞台・客席がひとつになりました。



〈地域学習支援課〉

中学校生徒意見発表会

1月8日（水）に、ルネこだいら大ホールで開催され、市内中学校10校の代表生徒が、それぞれの考えを自分の言葉で堂々と発表しました。

また、当番校の上水中学校生徒会は、意見発表会のサブタイトル「想い届け ～僕らで変える未来～」の考案やポスター原画作成のほか、当日の司会や舞台運営を担い、大いに活躍していました。

発表文集は、小平市ホームページからご覧いただけます。



〈発表生徒の皆さん（前列）と上水中学校生徒会の皆さん（後列）〉

〈地域学習支援課〉